

宮崎縣富島町附近の讀図

九鬼, 將憲

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

29

(終了ページ / End Page)

31

(発行年 / Year)

1950-07-01

宮崎縣富島町附近の讀圖

九鬼將憲

(五万分の一高参考)

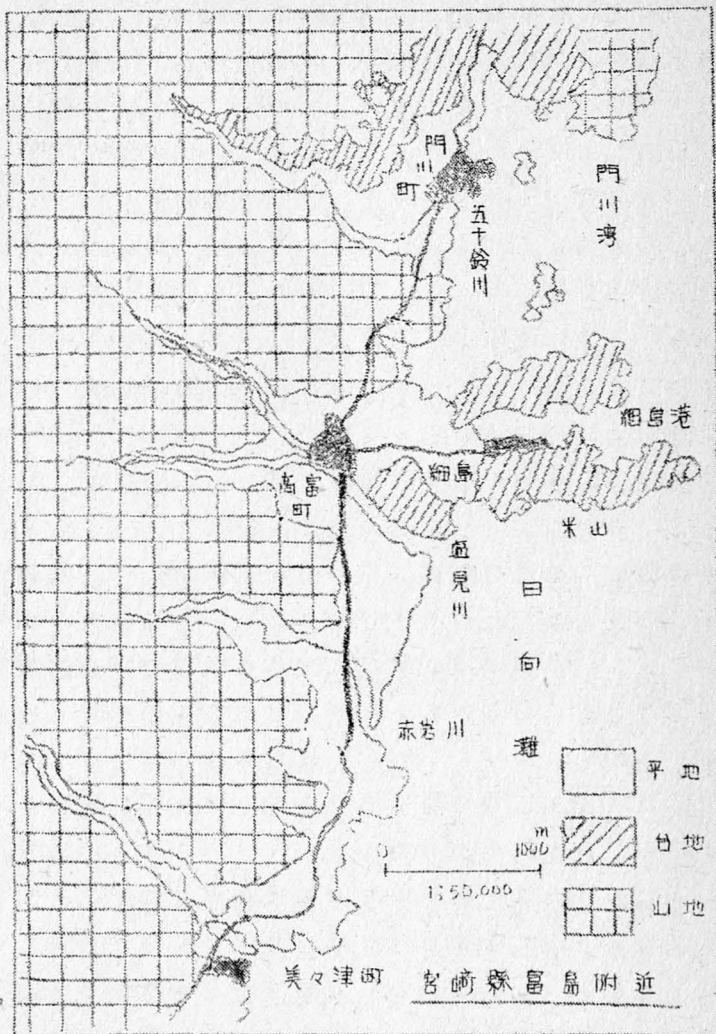
日豊本線門司港を
 発して南下七跨向余、
 宮崎六分兩縣境の向
 断なき數十個の隧道
 を通過して眼前に展
 開されるのは宮崎県
 東海岸の平野である。
 由來九州の南東海岸
 は壯年期の峻嶒なる
 九州山脈が迫つて平
 野に恵まれず、東九
 州として文化に浴す
 ることが少なかつた
 ことは、日豊線の全
 通が大正十年であつ
 たことに依つても推
 察される。日向灘に
 面して極めて單調な
 る宮崎海岸平野の北
 部に位する唯一の要
 津細島港と富高町に
 就いて述べてみたい。

1. 海岸地形

圖を見て大體沈降海岸であつたことを推察し得る。土地の沈降により
 門川湾及び數個の島峙を生じた。之が再び土地の隆起を見同時に五十鈴
 川、壺見川下流の堆積と共に小平野を生成して現在に至つたものと思わ
 れる。

掘山、畑浦の丘陵も曾て日峰の瀆が島峙となり更に陸続して細島港を包
 むる小半島を形成するに至つたものであろう。

土地の隆起は五十鈴川及び南部の美々津川に穿入曲流を見ることによつ
 ても察知される。しかもこの曲流は屈曲の内側の谷壁(潛走斜面)が緩



傾斜となり外側（攻撃斜面）が侵蝕せられ急傾斜となっていることによつても之は柱状曲流と見るべきであらう。

海岸に面する岩石の海蝕甚しく僅かながらも海蝕台を見ることによつてこの海岸の風浪の甚だしいことが知られる。事実日向灘は玄海遠江と共に古来海上交通の難所と知られ殊に季節風の卓状する夏から秋にかけての激浪は強烈を極めこの地方の海上交通の発達を阻むところが大であつた。寄航地としては細島港を数える位で他に土々呂、内川、美々津などを有するも浅く僅かに小型漁船の出入を許す程度にすぎない。

遠見川下流の堆積は小倉浜を作りその面北部を流れる赤岩川の川口を南下迂回せしめたが、一には海岸潮流のためでもあらう。小規模ながら五十鈴川下流の砂浜も内川湾内に滲入する海岸潮流によるものと思われる。尚小倉浜背後の一帯の針葉樹の植生あるのは砂防林であらう。

2 土地利用——畷島の性格——

この図による土地利用は概ね山地は森林、台地傾斜地は畑、低地は水田と大別されるが、最も注目すべきは、畷高町北部の早稲作的に開拓が進み、一〇〇乃至二〇〇米の台地状の洪積台地の侵蝕谷の上に限りなく水田が開かれていくことであり、平坦なる台地を開拓する樹枝状の谷に一本一本細長く入りこんだ水田の分布には、逞ましい農民の生活意欲の跡が窺われ、之は我が國に於ける耕地の発達の特徴を示す典型的なものであらう。この耕地の分布によつても知られる如く畷高町は純農村であらう。しかもかなり畷裕であり旧幕時代には北部近隣の内藤藩南部高橋の秋月藩の中間に位置して、幕府直轄の天領としてこの地方では特異な存在をなしていた。而してこの町は昔ては現在の畷高の南部遠見川右岸の日光寺山下附近にあつたが明治二十年西郡山陰^ツ方面よりの街道が功通を經つて陸道し交通の要所となり、之のためにこの町は漸次北方に移動し、國道及び山陰街道の交叉点を中心として町（集落）が発展し時給のみ大正末期日豊線の開通と共に地の利を占めた町は急激なる発展を遂げたのである。この附近の道路は主として海岸若くは河川の絡谷に沿っているがこの山陰街道は西方上抵集村を經て熊本県方面へ通ずる唯一にして且重要な交通路をなしている。

畷高の東に細島がある。細島港は前述せる如く極めて水深大で、大阪方面への通航路を有する良港であり、宮崎県東海岸が一連の砂浜をなし漁港に乏しいこの地方としては、遠海漁業の基地をなして糸市場を完結

され、所謂漁村らしい漁村であつた。又こゝに穀類所が置かれていたことは昔名であり之はるの入りこんだ港湾内部が緩る静穏であることを物語っている。

富島と細島とは古くは別個に発展していたが鉄道（細島線）の敷設と共にその関係は極めて密着となり両島は有無相通い近江併合によつて富島町の誕生を見るに至つたのである。

富島と全く相異つた立場にあるのは南部の淡白築港たる隣邑美々津町である。旧幕時代には美々津川口を利して領主秋月侯の参勤交替時の発航地をなし交通上の一要衝として栄え、明治初期までは幕下有数の郡邑として知られていたが、近江美々津川上流に発電所が設置され、爲に河川の水壙築設し翻へ日笠本線の開通と共に最早河港としての機能を全く失つてしまつた。しかも元来耕地に乏しく従つて農村としての経営も不可能であり、漁村に転ずべき資本もなく立地条件にも恵まれない当町は唯一散への一途を辿りつゝある現状なのである。

◎昭和24年度講義題目 (敬稱略 五十音順)

- 渡井辰郎 [Text]
 ○地理学実習 (H. Whitbeck; The Geographic Factor; T. Thomas)
- 新井浩
 ○地理学特殊講義 (築港地理学)
 ○地理学実習 (卒業論文指導)
- 大久保武彦
 ○地理学実習 (図式と測量)
- 福山俊雄
 ○自然地理学 (読 函)
 ○自然地理学実習 (読 函)
- 畠田文男
 ○自然地理学 (植物地理学、土壌学)
 ○地誌各論(カ4) (ドイツ及北欧地誌)
- 田中 銘 秀 三
 ○地理学特殊講義 (海 洋 学)